



人間環境大学看護学部 同窓会会報

vol.2
2021年1月発行

人間環境大学看護学部同窓会

事務局：〒474-0035 愛知県大府市江端町3-220

ホームページ：<https://www.uhe.ac.jp/user/graduate.html>

ご挨拶

会員の皆様へ

同窓会副会長 佐藤 凜

平素より人間環境大学看護学部同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。私は、人間環境大学同窓会副会長の佐藤凜と申します。看護学部の1期生として2018年に卒業いたしました。

今年は、新型コロナウィルスの影響で我慢の1年となりました。日常生活はもちろんのこと、医療現場や地域保健に携わっている皆様には特に大きな影響や変化があったと思います。このように大変な世の中ではありますが、1期生の皆様は多くの経験、これまでにない体験を積み重ね、先輩として、また2期生の皆様は、各々の道の新人として精一杯頑張っていることと存じます。

同窓会委員としましても今年は十分な活動ができない状況でした。その中で同窓会総会・ホームカミングデーをWEBで開催することが決定し、慣れないなかでのオンライン開催は大変でしたが皆様のご協力・ご参加のおかげで、無事に開催することができました。誠にありがとうございました。

同窓会はまだ歴史も浅く、役員数も少ないので、今年度は新役員の加入もあり、より良い同窓会となるよう活動を継続していきたいと思っております。人間環境大学看護学部同窓会の発展のために、皆様と大学が触れ合う機会を持てるような活動を計画していくので、引き続き同窓会活動へのご支援とご協力、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

同窓生の皆様へ

人間環境大学看護学部 学部長 篠崎 恵美子

同窓生の皆様、それぞれの看護実践の現場において頑張っていらっしゃると拝察いたします。

さて、世界中で新型コロナウィルス感染症が拡大し、数年前とは異なる生活を強いられています。大学では遠隔授業が導入され、演習などの一部の科目をのぞき、web講義をしています。医療現場においても物資不足、人材不足など多くの困難な状況でしょう。人類の歴史は感染症との戦いでもあるといわれています。今後もwithコロナ、afterコロナというキーワードは意識しなくてはいけない状況が続くことでしょう。皆さんが本学で修得された知識、技術そして看護観は誰も奪うことができない財産です。フローレンスナイチンガールの言葉に、“Live your life while you have it. Life is a splendid gift. There is nothing small in it. Far the greatest things grow by God’s law out of the smallest. But to live your life, you must discipline it. (あなたがそれを持っている間、あなたの人生を生きてください。人生は素晴らしい贈り物です。人生にはなにもちっぽけなものはありません。神の律法によりもっとも小さいものからもっとも素晴らしいものに成長します。でもあなたの人生を生きるためにそれを訓練する必要があります)”という言葉があります。

また、ナイチンガールが友人に送った手紙に次のような言葉があります。“I never lose an opportunity of urging a practical beginning, however small, for it is wonderful how often in such matters the mustard-seed germinates and roots itself. (物事を始めるチャンスを、私は逃さない。たとえマスターの種のように小さな始まりでも、芽を出し、根を張ることがいくらでもある)”。本学にはまだ皆さまが学ぶ場を用意しています。大学院やそのほか臨地実習指導者講習会などです。同窓生の皆様にもこの言葉を送りたいと思います。

2020年同窓会総会・ホームカミングデー

2020年10月24日（土）第2回同窓会総会・ホームカミングデーが開催されました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、初の試みとしてオンラインでの開催となり、企画から実施に至るまで多くの大学関係者の皆さんや専門業者の皆さんのご協力のもとで、無事に終了することができました。

同窓会総会では、役員はそれぞれ担当した役割の責任を果たすべく、運営事業の検討や会則の見直し、WEB開催での進行表作成、進行原稿の準備など、これまでにない多くのタスクに奮闘しながら、同窓会運営報告や会計報告がなされました。

ホームカミングデーでは、参加人数は少なかったのですが、1期生・2期生が笑顔で同じ時間を共有し、穏やかで、懐かしい時間を過ごせたことは、最良であったと思います。このような素敵なお時間をもてたのは、同窓会役員の皆さんの協力、役員間の連携あってのことだと思います。

今後も卒業生のみなさんが、気軽に、そして楽しめる場となるよう同窓会の活動を盛り上げていきたいと思いますので、ご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願ひ申しあげます。

同窓会委員幹事



同窓会誌に寄せて

人間環境大学看護学部地域看護学（公衆衛生看護学領域）

翼 あさみ、小島 修子



保健師コース同窓生の皆さんこんにちは！ 皆さんには、保健師又は看護師として多忙な毎日をご過ごしておられることと思います。特に今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応で、病院も行政機関もこの対策に追われたことだと思います。第3期生（現4年生）も実習の延期や変更がありましたら概ね順調で、現在は国試対策の真最中です。今後の皆さんのご活躍に期待すると同時に、後輩を職場に迎えた際には、どうぞご指導をよろしくお願い致します。



人間環境大学看護学部小児看護学（小児看護学領域）

深谷 久子

ありがとう、卒業生の皆さん。

医療に従事されている皆さん、危険がともなう中、必死になって私たちの心と身体を守ってください、本当にありがとうございます。

多くの方の命を守るだけでなく、私たちの「未来」を守ってくれていると思います。皆さんには、私たちのヒーロー・ヒロインです。世界に再び日常が戻った時、皆さんのが必死に闘ってくれたことを私たちはきっと忘れないと思います。

たくさんの「命」と「未来」が救われていること、本当にありがとうございます。

自分のことも大事にしてくださいね、いつもありがとうございます。

いつもがんばってくれて感謝しています、ありがとうございます。

大切な人を守ってくれて、ありがとうございます。

私たちの「明日」を支えてくれて、ありがとうございます。



大学の横の小川でおぶちゃんと一緒に

卒業生の近況報告

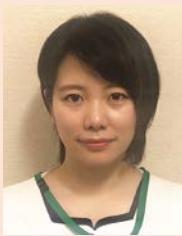


刈谷豊田総合病院 脳神経外科・内科病棟
伊藤 優希さん

私は脳神経外科・脳神経内科病棟で勤務し、2年目になります。要領よく動くことが苦手で、のんびり屋の私が、学生時代は急性期病院で働くことなど想像もしていませんでした。脳血管疾患の患者さんは重度の麻痺や意識障害が出る方も多い、症状に応じた機能回復への援助が求められます。患者さんの状態に応じた援助の提供はもちろんですが、退院後の生活を見据えて今できることは何かを考え、個別に応じた援助は私たち看護師の共通の課題だと思います。患者さんやご家族のニーズに対応した退院支援を行い、一人でも多くの患者さんの役に立ちたいと考えています。

看護師としてはまだまだ未熟な上に、要領も悪く、思うように業務ができず落ち込んだり悔しい思いもたくさんしますが、そのような時、学生時代「患者さんのために何かしてあげたい」という思いを大事に、日々の看護に努めています。看護は大変な仕事ですが、とてもやりがいのある素敵な仕事だと思います。急性期病院という忙しい環境・現場だからこそ、患者さんたちに笑顔を届けられると信じ、毎日頑張っています。

ホームカミングデーや同窓会会報を通して、皆さんの近況も是非お聞かせください。会えるのを楽しみにしています。



大府市内産婦人科クリニック
内海 ひかりさん

私は大学卒業後4月まで第三次救急の病院で働いていました。現在は産婦人科のクリニックで働いています。以前の病院の業務は多忙であり、辛いと思う気持ちもありましたが、一方でやりがいを感じることも多かったです。私が転職した理由は、学生時代から母性看護学に興味があり助産師に憧れていたことから、興味のある分野で働きたい、また環境の変化もあったからです。現在は、病棟と外来の配属で、主な業務内容は入院中の妊産婦、新生児のケアを行ったり、手術業務、不妊治療の処置・支援を行っています。周産期医療では、妊産婦の状態はローリスクからハイリスクへ移行することも少なくなく、実際緊急帝王切開後に大病院へ搬送されたケースを目の当たりにし、分娩は命懸けという言葉の意味を実感しています。また、新生児や妊産婦の異常にいち早く気付くための観察力や正常から逸脱した状態への対応には、日々の学習が必要です。仕事と勉強の両立は大変ですが、やりがいを感じる毎日を過ごしています。

今後は助産師学校に通い、高い実践能力や専門性を有する助産師の資格を取得したいと考えています。大変なことは覚悟していますがそのぶん、今後が楽しみです。



田原市役所 高齢福祉課
岩本 光介さん

田原市役所 高齢福祉課 岩本です。僕は田原市で行政保健師として働いています。主な業務内容は、医療介護連携推進のための基盤づくりとして地域のデータ収集と分析、医師会や福祉と協力をして事業を行ったり、地域包括ケアシステムの構築として介護予防教室の運営や介護保険制度の普及、啓発活動に携わっています。簡単に言えば、会議をしたり、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に運動している感じです。

仕事で大変なところは、結果がすぐに見えないことです。人に直接ケアをしたり、短期間で評価が得られたり、成果に現れることが少なくなつたため、自分が計画・実践している事業内容に不安を感じこともあります。そういう時は、上司と相談して体操教室や介護施設、病院といった現場に出向き現場の人や市民と関わることで自分のやっている事業の確認作業をしています。

看護師とは違った難しさがある仕事ですが、自分の性にあっていると思うので日々頑張っています。



社会医療法人宏潤会大同病院 脳神経外科病棟
原田 安理沙さん

私は現在大同病院で脳神経外科の看護師として働いています。脳神経外科には脳血管障害や頭部外傷、脳脊髄腫瘍などの患者さんが入院されます。脳神経系疾患の患者さんは、認知機能の低下や摂食嚥下障害、麻痺、不随意運動の出現によって、日常生活に支障きたすことが多く、状態に応じた看護ケアが必要になります。患者さんの状態に応じた援助を実施するためには、高い技術力を習得する必要があります。当院は質の高い看護ケアの提供にむけて、段階的な教育プログラムが組まれており、各プログラムの終了時に技術テストがあり合格は必須となります。技術テストに合格することは、技術力を確かなものにするだけでなく、患者さんに必要な援助や状態に合わせた援助の提供に繋がります。確かな技術の習得は私の目標もあります。また確かな技術の習得には、現在おこなっている日々の援助の積み重ねも重要であると考えています。常に挑戦を続けている毎日ですが、時には業務に追われ、技術テストと業務の両立に苦戦することもあります。業務や医療・看護の知識、技術においてわからないことがあります、早く独り立ちし、患者さんの命を預かる立場として責任ある行動が出来るよう頑張りたいと思います。

同窓会活動内容に関する企画募集

現在同窓会では下記内容の活動をしています。

総会開催

ホームカミングデー開催

大学祭への協賛

会報の発行

卒業生への記念品贈呈



同窓会を設立して2年が経ちました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、満足のいく活動ができていない状況でした。このような状況だからこそ、同窓生同士の交流や大学との連携を深めるために、幅広い活動が必要だと考えています。

そこで、同窓生の皆様に、活動に関する企画を募集したいと思います。こんなことやってみたら在校生にも役立つでは?とか、こんなことをして大学との連携を図りたい、より質の高い看護を目指す者同士、オンラインで意見交換をしたい、などなど、多くのご意見、企画案を募集しています。

連絡先は、gakuseika-obu@uhe.ac.jpです。皆様からの連絡を楽しみにお待ちしております。



人間環境大学 大学院 看護学研究科

4つの分野(看護教育管理学、実践看護学、広域看護学、助産学)で、未来の看護を拓く!
グローバル社会の中で社会貢献と自己実現を目指す研究者・教育者・管理者を育成する「総合看護教育」

博士前期課程

〈設置概要〉

・修業年限:2年・入学定員:20名・学位:修士(看護学)修士(助産学)

博士後期課程

〈設置概要〉

・修業年限:3年・入学定員:8名・学位:博士(看護学)博士(助産学)

＼2020年4月／



～JINKANならではの、4つの強み～

Point 1

ハイリスクに対する助産実践の強化

正常産を自律して診断し、さらに緊急・異常時に対応できる臨床推論力を培います。
社会的課題に対応できる身体的・心理社会的ハイリスクに対する助産実践を強化します。

Point 2

対話力の強化・臨床心理研究指導分野との共同演習

生命と人間を尊重し、性と生殖に関する健康や権利および意思決定、さらには倫理的問題に対応できる能力を育成するために徹底した対話力の強化を行います。

Point 3

臨床のリーダーとなるコーディネーター力

助産師としてのリーダーシップを発揮し、他職種と連携・協働・調整ができる能力を育成するために、臨床助産のリーダーとなる高度助産実践を強化します。

Point 4

取得学位修士(助産学)

母子保健や周産期を取り巻くさまざまな課題をとらえ、助産ケアに取り組む能力を育成するために、臨床に応用・還元できる助産学研究を指導します。



我が国の中産期を取り巻く環境は、①ハイリスク妊娠産婦の増加 ②低出生体重児の増加 ③子ども虐待の増加 ④産科医不足 ⑤分娩場所不足 ⑥助産師の就業先の偏在などの課題があります。人間環境大学大学院看護学研究科では、全ての妊娠産婦と新生児に対し、質の高い助産師のケアを提供することを目指し、修士(助産学)の学位をもち、エビデンスに基づく高度助産実践能力、さらには現状を客観的に分析できる研究能力を備えた助産師を育成いたします。

大学院 看護学研究科長 教授 篠崎 恵美子

博士(看護学)
名古屋大学大学院医学系研究科博士後期課程満期退学。
専門は基礎看護学。
フィジカルアセスメント、コミュニケーション、模擬患者を研究のテーマとしている。



教授 杉下 佳文

博士(保健学)。
神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。
専門は母性看護学・助産学。
「分娩進行における生物学的研究」「周産期のメンタルヘルスと子ども虐待予防」「胎児への愛着に関する介入」を研究テーマとしている。



准教授 谷口 通英

修士(保健学)。
神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程前期課程修了。
専門は助産学、母性看護学。
周産期の女性とその家族について、並びにハイリスク児の育児支援についてを研究テーマにしている。